

荒井神社と小松原三社の秋祭り

古文書によると、荒井神社は 629 年に創建され、現在の地に鎮座したのは鎌倉時代（1185～1333）の中頃とされています。祭神は大黒天と恵比寿天の二柱です。

現在ある荒井神社の本殿は昭和 18 年（1943）に建てられました。庭園には、縁結びのご利益があるとされる「結びの松」や、人気小説家・劇作家・詩人・芸術家・哲学者である武者小路実篤（1885-1976）の詩が刻まれた歌碑があります。

小松原三社神社は 17 世紀に創建され、中世（1185 ～ 1568 年）の小松原城跡にあります。

毎年 10 月に各神社で行われる秋祭りでは、色とりどりのだんじりとともに神輿が登場します。最大の見どころは、江戸時代から続く、踊りを中心とした仁輪加太鼓の公演です。

毎年、2 人の太鼓打ちがそれぞれ異なるスタイルで町内を練り歩き、三味線に合わせて踊り手が寸劇を披露します。祭りの起源は江戸時代初期から中期にさかのぼるといわれ、最古の証拠は 1849 年と刻まれた太鼓箱です。仁輪加太鼓は高砂市の文化財に指定されています。